



中 神

昭島市立中神小学校
校長 松井 茂

明けましておめでとうございます。

平成最後の年、平成31年が明けました。干支でも十二支の最後、猪年です。慣用句に猪突猛進という言葉があります。あまりよい意味で使われることが少ないようですが、目標に向かって猛烈な勢いで突き進むことは、時には必要な行動です。来年度は、新学習指導要領完全実施となる前年になります。新しいことへの取組もありますが、それにはエネルギーがいります。それが必要な年でもあります。子どもたちの学習が、よりよい環境でスタートできるよう教職員一丸となって進めてまいります。

さて、子どもたちは短い休みでしたが、始業式での様子からどの子からも“今年は”という意気込みを感じることができました。3学期、一人一人の新年の抱負や希望を年度の最終学期としての心構えに織り込み、1年間の締めくくりの教育活動を進めてまいります。保護者・地域の皆様には、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

言葉は人を支え 人を変える

言葉は力、言葉は心と言われますように、自分の気持ちを自分の言葉で表現することや相手の言葉を聞いて相手の気持ちを理解することが、言葉によって良い人間関係を築く力になると信じます。そのためには、日々の生活において、お互いの心を通い合わせる言葉の存在が不可欠です。

心とつながる言葉は、自らの体験によって初めて自分の言葉として役割が見えるものです。それだけに、様々な言葉を知識として知っていることが、そのまま言葉の力とはなり得ません。「人間性と言葉はセットであり、言葉を育てることは、人間を知ることであり人間関係を築くこと。」(アナウンサー 山根甚世氏)と言われるように、様々な状況を踏まえた気持ちはメール等の文字情報だけでは伝えきれないものです。一言の言葉に託された多くの思いは、言葉の意味と共に伝える側の姿勢をも伝えることができます。そこで、自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で語ることが求められています。そのことが自分自身を変えることになり、周りの理解と広く社会をも変える力になっていくとも言えます。

小学生や中学生の言葉遣いが気になっていると、もう10年以上前から言われることがありますが、ある知人の中学校教師から「部活や校外のボランティア等、多くの人とかかわりができることに比例して、言葉遣いが気にならなくなりました。」という話を聞きました。このことは、体験を通して心につながる言葉を獲得できた姿でもあります。あいさつにしてもコミュニケーションを支える言葉です。それだけに言葉遣いは、本人が考える以上に相手とのかかわりに大きな影響力をもちます。あいさつの一言でお互いの気持ちを理解し合えることに気付ける子どもたちであってほしいと思います。

良い言葉は、良い人生をつくる。だからこそ、言葉は人を支え、人を変えるものであり、大切にしていきたいものです。

<来年度の土曜授業について>

2学期末の保護者会において、来年度に限り土曜授業の回数を増やすことをお伝えさせていただきました。新天皇即位の関係で、祝日が増え授業時数の確保が厳しくなります。そのため、土曜日の授業を今年度より3回増やすし年間9回とする予定です。(運動会・学芸会を含む)

詳しい日程につきましては、後日、お伝えさせていただきます。